



鶏 鳴

〒221-0864

横浜市神奈川区菅田町2851

(電話 045-473-7191)

イエスの言葉

『心の貧しい人々は、幸いである

天の国はその人たちのものである』

聖書(マタイ福音書5章3節)

牧師 河合裕志

マタイ福音書5章6章7章は昔から「山上の説教」と呼ばれているところでイエスの印象深い言葉が満載されている。下方にきらきらと輝くガリラヤ湖を見るあたり、小高い山にあつてイエスは腰をおろして語った。側近くに弟子達、遠まきに大勢の人々が耳を傾ける。

そして開口一番がこれ。しかしなんで心の貧しい人々が幸いなのか反発したくなる。私達の国では心が貧しくちゃいけないよ、豊かな心の持ち主になんなよ、と教えられて来た。その場合の心が貧しいとは自分のことしか考えないガツガツした心を指す。人のことも考えられる人間になんなよ。これが心が豊かということ。このモノサシからすればイエスの教えは全然なっていない。

でも一寸待って。イエスのかねての教えは隣人愛じゃなかった？ 隣人を愛しなさい、自分のように。これがイエスの正真正銘の教え。だから心の貧しい人が幸いというのは自分中心の人が幸いだよ、などと言ったものではない。

それではどう言うつもりでこんな言い方した？ それは人への愛が乏しいとか正しく生きられない自分の至らなさとかを知る者、自分には誇るべきものがないなあ、と

思う者、こうしたところから、神さま、私を憐れんでください、私を助け導いてくださいと神に依り頼んで行く者、このような自分の分をわきまえた、へりくだった者のことを心の貧しい者というのだろう。

逆に心貧しくない者というのは、私には愛が豊かだ、私は正しく生きている、私はあれもできる、これもできる、私は金を持って居り、信仰心も厚い。こういつて鼻高々の人、そしてつい他人を軽蔑する者、こうした者は心貧しくない人でイエスが最も嫌った人種。その代表選手はファリサイ派の人々。

水野源三さんは「自分ひとりで生きていると思いつづける心を、愛し得ない心、赦し得ない心を砕いて砕いて砕きたまえ」と歌っている、祈っている。

こうした祈りを持つ者が心貧しい人と言うのだろう。すでに心が一杯、満ち足りている者には祈りなど不要なこと。自らの内をのぞいて不足を認めるからこそ神よ、イエスよ助けてください、導いてくださいとの祈りが起ってくる。

そうしたへりくだる者にイエスは天の国を約束した。だから幸い、ハッピーだよ。心貧しく祈りつつ歩みたいもの。

集会案内

日曜礼拝：午前10時15分、日曜夕拝：午後6時

英語聖書を読む会：日曜日午前9時半

子どもの教会：日曜日午前9時

中高青年会：日曜日礼拝後

お話し会、卓球：水曜日午後1時～7時

お祈り会：水曜日午前6時、午前10時、午後7時